（書式２）

＜事務局使用欄＞受付番号：　　－

「2014 年ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学　工学研究科２年　和田洋介

今回のプログラムの内容は主に、ベトナム語の会話、日本語の読解・会話、ベトナムの文化史等の講義が中心で、最終日は日本とベトナムを事例とした生活様式についてプレゼンテーションで発表した。具体的に、ベトナム語の日常会話について習得し、ベトナムの学生に日本語を教えることで日本人が使用する日本語のイメージ強化に努めた。ベトナムの歴史や経済について学んだほか、ベトナム人にあまり馴染みがないであろう鉄道（特に新幹線）について知ってもらい、日本に来るときのイメージ付けになることを期待して発表した。

授業等を通して、ベトナムの学生と接する機会が多く、一緒に観光や食事をすることで、日常生活から学問まで幅広く交流することができた。また、ハロン湾、チャンアン、ドンラム村に行くことで、ベトナムの自然、農民達の生活について触れ、貴重な体験となった。

本プログラムの参加を通して、やはり多くの現地の学生と交わることができたことが一番大きいと感じた。ベトナムの学生は人懐こくて純粋な者が多く会話していてまず楽しかった。恋愛等の日本人の恥ずかしがりそうな話題も積極的に話しており、両国の性格の違いを感じた。また、ベトナムは東南アジアの一国であるが、タイのバンコク等と大きく異なった、むしろ中国と多少似た独自の文化を持っていることを感じ驚いた。ベトナムは古くから中国と接点が多くあったなど新しい発見が多くとても興味深かった。学生生活が残り半年ということもあり、海外留学をする機会はないかもしれない。しかし、私は海外勤務が多くあるような会社で働くことになったので、国による性格や価値観の違いを知っていたり、海外の学生と接していたことは異なる文化を持つ海外で仕事をする上で大きなヒントになると思っている。その際も技術的なことだけでなく、文化的なことについてもどんどん吸収していきたい。

本プログラムでは班長を務めさせていただいた。行動の自由度が比較的高く、日本と違い授業や実地研修、健康面でも不測の事態が起こりやすい中、皆を「統率」するのは想像以上に簡単ではなかった。しかし、今回の経験で身に付いた判断力、決断力は今後社会人としてチームを率いるときに大きく役立つと思い、私は班長をやってよかったと思っている。

思い起こすと、この二週間はあっという間だったが、とても内容の濃いものであった。文化の垣根を越えて多くを語り合ったベトナムの学生さん達と困ったときはいつも協力してくれ、時には大切なアドバイスをしてくれた京大のメンバーはかけがえのない仲間、財産であり、今後も深い付き合いをしていきたい。